

下田メディカルセンター経営強化プラン

— 点検評価報告書(令和5年度) —

2024年(令和6年)12月

一部事務組合下田メディカルセンター

下田メディカルセンター経営強化プラン実施状況 点検・評価報告 (令和5年度)

下田メディカルセンター経営強化プランは、令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間を対象期間とし、人口減少や少子高齢化、医療需要の変化、新興感染症への備え、医師・看護師不足等の厳しい環境の中で、持続可能な地域医療供給体制の確保を目指すものです。

本経営強化プランでは、実施状況を点検及び評価し、公表することとなっています。

開設者	一部事務組合下田メディカルセンター	
プランの名称	下田メディカルセンター経営強化プラン	
策定	令和6年2月	
計画期間	令和5年度～令和9年度(5カ年)	
病院の概要	病院名 1	下田メディカルセンター
	運営者(指定管理者)	医療法人社団静岡メディカルアライアンス
	所在地	静岡県下田市六丁目4番10号
	許可病床	一般病床134床(急性期101床、地域包括ケア33床)、感染症病床4床
	診療科	標榜診療科16科 内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、婦人科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、リハビリテーション科、糖尿病内科
	病院名 2	下田メディカルセンター附属みなとクリニック
	運営者(指定管理者)	医療法人社団静岡メディカルアライアンス
	診療科	内科
公立病院として今後果たすべき役割	静岡県保健医療計画における二次救急医療機関として急性期医療を担い、地域住民に必要な医療サービスを提供するとともに、災害医療、感染症医療、へき地医療の実施に加え、地域包括ケアシステムの構築に向け、医療・福祉・介護の連携体制の構築に務める。	
点検・評価の体制	点検：院内で実施 評価：事業評価委員会で実施	
公表	一部事務組合ホームページで公表	

1 評価方法について

本プランは、令和6年2月に策定しました。従って、令和5年度は目標数値等がないため、令和5年度の見込値と実績額を比較し、評価しました。

評価の基準

評価	達成率	
S	120%以上	目標を相当程度上回り達成した
A	100%以上 120%未満	目標を達成した
B	80%以上 100%未満	目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要である
C	80%未満	目標を達成しておらず、改善が必要である

2 対象年度(令和5年度)の概要

新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけは、令和5年5月8日に「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」から、「5類感染症」に変更されましたが、年間を通じて新型コロナウイルス感染症患者の受診や影響は続き、引き続き感染症対策を行う必要があったことから、医療現場や経営に影響が発生しました。

病棟編成・診療科の動きについては、高齢化が急速に進む賀茂医療圏において、在宅医療の充実が強く求められていることから、令和5年4月より、回復期患者に加え、在宅復帰支援や在宅療養患者の受け入れが可能な「地域包括ケア病棟(33床)」の運用を開始し、訪問リハビリテーション事業を8月から開始しました。また、賀茂圏域は、糖尿病の重症化率が高い傾向にあることから、糖尿病内科を診療科目に加え、16診療科体制としたほか、4月より院内処方から院外処方に移行しました。

病棟編成の変更を含め、変化する地域医療ニーズへの対応に取り組んだ一年でしたが、医師確保の困難さが顕在化した年でもありました。令和5年4月より整形外科常勤医師が不在となり、手術や入院が制限されました。その影響もあり、入院患者数、外来患者数、病床利用率とも前年に比べて減少、低下しました(令和6年4月に常勤医師1名を採用。評価時には常勤医師による診療を実施中)。

医療機器については、老朽化していた超電導磁石式全身用 MR 装置(MRI)や血液の自動分析装置等を更新し、検査水準の維持に努めるとともに、来院者の利便性を高めるため、サイクルポートの整備を行いました。

3 患者数の状況(経営強化プラン8頁)

(1)患者数等の推移

ア 入院患者数の状況(令和元～5年度)

項目\年度		R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
入院	入院延患者数	34,137人	32,999人	33,473人	28,720人	27,385人
	診療日数	366日	365日	365日	365日	366日
	1日あたり平均患者数	93.3人	90.4人	91.7人	78.7人	74.8人
	病床利用率	66.61%	65.24%	66.19%	58.12%	55.60%

イ 外来患者数の状況

項目\年度		R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
外来	外来延患者数	70,844人	66,966人	68,868人	65,760人	59,855人
	診療日数	292日	294日	294日	294日	294日
	1日あたり平均患者数	242.6人	227.8人	234.2人	223.7人	203.6人

ウ 手術件数

項目\年度		R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
手術	外科	117件	124件	107件	100件	74件
	眼科	1,077件	897件	996件	287件	594件
	整形外科	334件	301件	312件	194件	3件
	皮膚科	17件	30件	26件	7件	0件
	泌尿器科	32件	18件	18件	21件	23件
	脳神経外科	23件	11件	18件	0件	0件
	合計	1,600件	1,381件	1,477件	609件	694件

エ 救急患者数の状況

項目\年度		R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	
救急	救急患者数	3,718人	2,735人	2,614人	3,092人	2,781人	
	内、救急車搬送件数	1,433人	1,329人	1,311人	1,330人	1,207人	
		時間内	576人	572人	576人	619人	519人
		時間外	857人	757人	735人	711人	688人

オ 附属みなとクリニックの状況

項目\年度		R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
外来	患者数	888人	916人	772人	728人	703人
	診療日数	206日	216日	217日	210日	215日
	1日あたり平均患者数	4.3人	4.2人	3.6人	3.5人	3.3人

4 病院経営強化プランにおける取組(経営強化プラン9頁～)

(1)役割・機能の最適化と連携の強化

ア. 地域医療構想等を踏まえた当院が果たすべき役割・機能

【実施状況】

(ア)救急医療について

下田メディカルセンターは、静岡県保健医療計画において、二次救急医療機関に位置付けられており、圏域の急性期患者の受け入れに努め、重篤な患者については、三次救急医療機関への速やかな搬送に努めました。

(イ)外来診療について

地域における医療ニーズの高い内科や整形外科を中心に一般的な疾患への対応に務めました。令和5年度は、整形外科常勤医師が不在となったことにより、手術や入院が制限され、入院・外来患者数とも大幅な減少となりました。地域に不足している小児科や眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科等の診療科については、非常勤医師の招聘を積極的に行い、診療を維持しました。

診療科別入院・外来患者数(含時間外)

診療科		令和4年度	令和5年度	比較	備考
内科	延入院数	19,302	23,040	3,738	
	延外来数	25,456	21,675	▲3,781	
外科	延入院数	2,251	3,461	1,210	
	延外来数	4,360	3,918	▲442	
婦人科	延入院数				
	延外来数	324	334	10	
眼科	延入院数	150	715	565	
	延外来数	4,669	5,566	897	
耳鼻咽喉科	延入院数				
	延外来数	2,141	2,833	692	
整形外科	延入院数	6,212	106	▲6,106	R5.4～ 常勤医不在
	延外来数	12,455	7,958	▲4,497	
小児科	延入院数		1	1	
	延外来数	5,024	6,022	998	
泌尿器科	延入院数	43	46	3	
	延外来数	2,592	2,745	153	
皮膚科	延入院数				
	延外来数	1,707	2,134	427	
リハビリテーション科	延入院数				
	延外来数	1,009	146	▲863	
糖尿病内科	延入院数				R5.9～
	延外来数		895	895	
循環器内科	延入院数				
	延外来数	1,742	1,857	115	
脳神経外科	延入院数	762	16	▲746	
	延外来数	3,110	2,496	▲614	
ドック	延入院数				
	延外来数	368	383	15	
健診	延入院数				
	延外来数	803	893	90	
合計	延入院数	28,720	27,385	▲1,335	
	延外来数	65,760	59,855	▲5,905	

(ウ)自治体等が行う検診業務支援

市町等	業務内容
下田市	子宮頸がん・乳がん検診
南伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診 骨粗鬆症検診
松崎町	子宮頸がん・乳がん検診
西伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診
河津町	子宮頸がん・乳がん検診
東伊豆町	子宮頸がん・乳がん検診

(エ)許可病床数の状況

病床機能別内訳		一般病床			感染症 病床	計
		急性期病床		地ケア病床		
		2F 病棟	3A 病棟	3B 病棟		
令和5年度	R5. 4. 1～ R6. 3. 31	52 床	49 床	33 床	4 床	138 床

※地ケア病棟＝地域包括ケア病棟

イ. 地域包括ケアシステムの構築に向けた果たすべき役割・機能

【実施状況】

地域包括ケアシステムの構築に向け、賀茂圏域1市5町からの依頼により「在宅医療介護連携推進支援センター」を院内に設置し、圏域内の医療と介護、福祉、自治体との連携強化に努めたほか、令和5年4月に地域包括ケア病棟を開設し、急性期治療後の在宅復帰支援や在宅患者・介護施設で療養している入所者の急性増悪時の受入れ、医療ショート(レスパイト入院)の受入れを開始しました。また、在宅医療の充実に向け、令和5年8月より、訪問リハビリテーション事業を開始しました。

(ア)賀茂地区在宅医療・介護連携推進支援センターの活動

賀茂1市5町より委託を受け、賀茂地区における拠点病院として在宅医療介護連携推進に向けた取組みを行いました。

令和5年度は、医療、介護、福祉関係者を対象とした各種勉強会を開催するとともに、圏域内多職種の共通ルールを策定し運用を開始しました。また、消防本部と連携した住民向け講演会を開催しました。

普及啓発のための講演会・勉強会

内 容	対象者
「医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師育成に向けた 勉強会」 9/29 下田市民文化会館	看護師
在宅医療・介護等多職種連携についての事例検討会 11/10 西伊豆会場	多職種
在宅医療・介護等多職種連携についての事例検討会 11/20 南伊豆会場	多職種
在宅医療・介護等多職種連携についての事例検討会 11/28 河津会場	多職種
シズケア＊かけはし概要・操作説明会 12/14 下田会場	多職種
シズケア＊かけはし概要・操作説明会 12/20 西伊豆会場	多職種
「賀茂健康福祉センター地域保健医療福祉活動研究会」 2/28 下田総合庁舎	多職種
医療・介護等関係者を対象とした勉強会及び交流会 1/17 西伊豆会場	多職種
医療・介護等関係者を対象とした勉強会及び交流会 1/24 南伊豆会場	多職種
医療・介護等関係者を対象とした勉強会及び交流会 1/25 河津会場	多職種
住民向け講演会 「いざという時に役立つ救急時の対応や救急搬送の利用について 学ぼう」 3/2 河津会場 駿東伊豆消防本部救急救命士	住民
住民向け講演会 「いざという時に役立つ救急時の対応や救急搬送の利用について 学ぼう」 3/9 西伊豆会場 下田消防本部	住民
住民向け講演会 「いざという時に役立つ救急時の対応や救急搬送の利用について 学ぼう」 3/16 南伊豆会場 下田消防本部	住民

(イ)地域包括ケア病棟の実績(3B 病棟 33 床)

項目\年度	令和 5 年度 (2023) 実績	備考
病床稼働率	73.3%	
在宅復帰率	76.8%	

※地域包括ケア病棟は、急性期医療を経過した患者や在宅で療養を行っている患者などを受け入れ、患者の在宅復帰支援を行う役割を担う病棟。下田メディカルセンターは、令和5年4月より運用を開始。

ウ. 機能分化・連携強化

(ア) 救急医療

二次救急医療機関として、令和5年度は年間 2,781 人、そのうち救急搬送 1,207 人（うち時間外 688 人）を受け入れました。当医療圏には三次救急を担う医療機関が無いため、重篤な患者については、順天堂大学医学部附属静岡病院等などの三次救急医療機関と連携し、患者の速やかな搬送に務めました。

救急患者数の状況

項目\年度		令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	比較	備考
救急	救急患者数	3,092 人	2,781 人	▲311 人	
	内、救急車搬送件数	1,330 人	1,207 人	▲123 人	
	時間内	619 人	519 人	▲100 人	
	時間外	711 人	688 人	▲23 人	

救急車搬入件数及び下田メディカルセンター搬送割合

	賀茂救急 搬送件数 (年)	賀茂救急 搬送件数 (月平均)	当院応受率 (月平均)	当院受入率 (月平均)	総受入 件数(年)	入院件数 (年)
令和4年度	4,379 件	365 件	82.8%	29.7%	1,330 件	528 件
令和5年度	4,541 件	378 件	80.6%	26.0%	1,207 件	530 件

(イ) がん相談支援センター設置病院としての役割

当医療圏における死因別死亡率割合の最も高い悪性新生物(がん)に対しては、県立がんセンターとの連携や、医療圏内の医療施設との連携、がん相談支援センター設置病院として情報提供・相談支援を行いました。

がん相談支援センターの事業報告(相談件数等)

項目\年度	令和4年度	令和5年度	備考
がん相談件数	252	156	
がんサロン開催数	0	4	がんサロン「菜の花」令和5年12月開始

(ウ) 地域の診療所の医療活動支援

当院は、地域包括ケアシステムの中で、日常医療を担う「かかりつけ医」の支援病院として、高機能医療検査機器(MRI、CT等)の共同利用を推進しました。

院外検査受入件数

項目\年度	令和4年度	令和5年度	備考
CT検査	165	171	

項目\年度	令和4年度	令和5年度	備考
MR I 検査	234	195	
骨塩定量検査	39	41	
超音波検査	77	83	
生理機能検査	6	8	
レントゲン検査	4	0	
検査共同利用合計	525	498	

工. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標の実績(経営強化プラン 10 頁)

数値目標

令和5年度は、目標数値がないため、令和5年度見込値と実績値を比較し、評価しました。

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
救急車受入件数(人)	1,330	1,300	1,207	△93	92.8%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師の不在により、入院受入制限を行ったことが、救急車受入数の減少につながった。 医師・看護師の確保を進め、診療提供体制の充実を図る。消防本部との情報連携を継続強化する。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
救急患者搬送割合(%)	29.7	26.5	26.0	△0.5	98.1%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師の不在により、入院受入制限を行ったことが、受入割合の低下につながった。 医師・看護師の確保を進め、診療提供体制の充実を図る。消防本部との情報連携を継続強化する。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R4:R5	達成率	評価
手術件数(件)	609	672	694	22	103.3%	A
評価及び今後の施策	常勤医の不在により整形外科において手術件数が大幅に減少したが、眼科診療における手術(主に白内障)件数が増加(R4:287件→R5:594件)した。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
リハビリ件数(件)	24,709	26,513	24,487	△2,026	92.4%	B
評価及び今後の施策	整形外科常勤医師の不在も影響し、ほぼ前年度並みの実績となった。 リハビリ専門職の確保を進めるとともに、関連する診療科の充実を図っていく。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
訪問リハビリテーション 件数(件)	—	480	562	82	117.1%	A
評価及び今後の施策	令和5年8月に事業開始。見込値を上回る実績となった。 引き続き、事業体制の整備と新規訪問先の拡大に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
紹介率 (%)	26.0	27.0	27.4	0.4	101.5%	A
評価及び今後の施策	地域のクリニックの減少により、年々減少の傾向にある。 引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、機能分化に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022)実績	R5年度 (2023)見込	R5年度 (2023)実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
逆紹介率 (%)	18.3	17.9	17.9	0	100.0%	A
評価及び今後の施策	地域のクリニックの減少により、年々減少の傾向にある。 引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、機能分化に努めていく。					

オ. 一般会計の考え方

病院事業は公営企業会計であり独立採算制を原則としますが、公立病院として、地域で必要とされる救急医療や感染症医療、小児医療、へき地医療等の採算性を求めることが困難な分野の診療も担っています。これら政策医療を実施するための経費については、総務省の繰出基準を基本として、令和5年度についても、構成市町の取決めにより、組合規約に基づく負担割合による繰入金を受け病院経営を行いました。

カ. 住民の理解のための取組

少子高齢化、人口減少が進む当圏域では、従来の救急医療の充実だけでなく、地域包括ケアシステムの構築が求められています。当院は、圏域唯一の公立病院として、医療と介護、福祉、自治体との連携強化に努める役割があることから、指定管理者と連携し、地域住民への広報活動に努めていきます。

広報活動等の取組み	令和5年度実績
病院広報誌の発行	3回/年発行
市町広報誌の活用	2市町の広報誌に健康講座を連載 12回/年
健康講座の開催	2023年 6月24日 第52回「新しい時代を迎えた股関節疾患の治療～我慢から治す時代へ～」 2023年 9月 2日 「敗血症とはどんな病気？」*コロナウイルス蔓延のため中止 2023年11月 4日 第53回「がんについて学ぼう～データでみるがんの特徴から最新医療まで～」

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革(経営強化プラン 11 頁)

ア. 医師・看護師等の確保

賀茂医療圏は、医師少数区域に分類され、医師を含む医療従事者の確保が困難な区域となっています。医師確保については、指定管理者が大学や関係機関への働きかけ、人脈による情報収集、医師斡旋を行う民間会社等も活用し、充足に努めていますが、令和5年度は、常勤整形外科医師が不在の状況で診療科を維持することとなりました(令和6年4月、整形外科常勤医1名採用)。

令和5年度は、静岡県医師3名(内科医)、静岡県医学修学研修資金を利用した医師(救急診療科)1名の計4名が派遣されており、県派遣医師が地域医療サービスの向上に大きな役割を果たしていることから、静岡県に継続派遣を要望しました。また、働き方改革を念頭に、医療スタッフの職場環境の改善に取り組みました。看護師の確保にあたっては、地元雇用を念頭においた採用活動を行い、未就労資格者に対する復職支援採用活動を行いました。

イ. 臨床研修医の受入等を通じた若手医師の確保

現在のところ、臨床研修受入にかかる人的、施設的な基準を満たさないため、病院単独での研修医の受入れはできていません。基幹型臨床研修指定病院の協力(連携)病院として、令和5年度は1名の若手医師の受入れを行いました。

ウ. 医師の働き方改革への対応

医師の働き方改革の新制度の施行が迫る中、当院においては、勤怠管理システムを導入し、医師の出退勤時間を管理、残業時間の適正な把握に努め、また、タスクシフト・タスクシェアを進めることで、医師の業務負担の軽減を図っています。なお、当院は、医療機関に適用する水準はA水準(特定労務管理対象機関非該当)が適用されており、宿日直許可についても管轄労働基準監督署の許可を得ています。

5 経営形態の見直し(経営強化プラン 12 頁)

指定管理者制度の導入を継続します。民間の医療法人を指定管理者として指定し、民間的な手法による効率的な運営、医療水準・機能の確保、患者サービスの向上を図っていきます。

6 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組(経営強化プラン 12 頁)

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月から感染症法上の位置づけが、新型インフルエンザ等感染症(2類相当)から、5類感染症へと変更になりましたが、地域において感染患者が継続していることから、感染患者の入院病床を確保するとともに、発熱外来の実施や院内の感染症対策も継続実施しました。

当院は、感染症指定医療機関として、平時より4床の感染症病床を配置し、常に運用可能な状態を保持しています。また、新型コロナウイルス感染症対応の経験を活かし、新興感染症拡

大時に対応できるよう、一般病棟における感染エリアのゾーニング想定や、感染防具等を備蓄しているほか、認定看護師(感染管理分野)を中心とした勉強会を実施しています。

7 施設・設備の最適化(経営強化プラン 12 頁)

(1)施設・設備の適正管理と整備費の抑制

平成24年の竣工以降、年数の経過により、施設・設備の老朽化がみられるようになりました。令和5年11月に施設長寿命化計画(行動計画)を改訂し、計画的な修繕・更新等を行うこととしていますが、突発的な故障(空調機等)もたびたび発生しており、診療業務への影響をみながら必要な修繕等を実施しているところです。引き続き、施設・設備の長寿命化に向けて、適正管理を実施していきます。

(2)デジタル化への対応

マイナンバーカードの健康保険証利用(オンライン資格確認)について、当院では令和3年10月より運用を開始しました。引き続き、利用者の増加に向けた周知の促進と、利用環境の整備に努め、医療保険事務の効率化と患者の利便性向上を図っていきます。

項目	取組内容
ICTの活用	コロナ禍ではタブレットを活用したオンライン面会を実施
電子処方箋の検討状況	2026年度導入に向けて検討中
電子カルテシステムの有効利用	患者情報の一元管理。検査結果等の迅速対応等で治療の質向上をサポート
DPCの導入	DPC対象病院への検討
情報セキュリティ	情報セキュリティ規程を策定し、医療情報システムの安全管理を強化

8 経営の効率化(経営強化プラン 13 頁)

(1)経営の効率化に係る数値目標

令和5年度は、目標数値がないため、令和5年度見込値と実績値を比較し、評価しました。

ア 収支改善に係るもの

※令和5年度より院外処方開始、令和4年度は参考値

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
経常収支比率 (%)	100.32	98.25	97.71	△0.54	99.5%	B
【指標の意味】	【算出式】					
医業費用、医業外費用に対する医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ 【実績について】 前年度に比べ、医業外収入（新型コロナウイルス感染症対応関係補助金）の減や、院外処方の開始による減収、入院・外来患者数の減少により、単年度収支は赤字となった。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
医業収支比率 (%)	87.91	90.03	86.61	△3.42	96.2%	B
【指標の意味】	【算出式】					
病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$ 【実績について】 医業収益の減少（コロナ禍以降の外来患者数の減少、医師不足による手術の制限、院外処方への移行等）により、見込値を下回った。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
修正医業収支比率 (%)	85.31	86.62	83.46	△3.16	96.4%	B
【指標の意味】	【算出式】					
医業収益から他会計負担金、運営費負担金等を除いたもの（修正医業収益）を用いて算出した医業収支比率	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業収益}} \times 100$ 【実績について】 医業収益の減少（コロナ禍以降の外来患者数の減少、医師不足による手術の制限、院外処方への移行等）により、見込値を下回った。					

イ 収入確保に係るもの

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
1日当たり入院患者数	78.7人	82.1人	74.8人	△7.3人	91.1%	B
評価及び今後の施策	新型コロナウイルス感染症の流行以降、患者数がコロナ前の水準に回復しない状況が続いている。外来患者数が減少しており、入院患者も減少傾向にある。整形外科常勤医師の不在による影響も大きかった。医師の確保を進めるとともに、地域の医療機関との連携を強化し、入院患者数の増加に努める。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
1日当たり外来患者数	223.7人	203.6人	203.6人	0人	100.0%	A
評価及び今後の施策	新型コロナウイルス感染症の流行以降、患者数がコロナ前の水準に回復しない状況が続いている。整形外科常勤医師の不在による影響も大きかった。内科や整形外科などの地域に求められる診療科の更なる充実を図っていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
入院患者1人1日当たり診療収入	40,320円	39,804円	40,173円	369円	100.9%	A
評価及び今後の施策	類似病院のうち、黒字病院の平均(R4)と同程度以上の収入である。 更に効率的な運営に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
外来患者1人1日当たり診療収入	16,768円	9,406円	9,771円	365円	103.9%	A
評価及び今後の施策	類似病院の全国平均(R4)をやや下回っている。 安定した病院経営に向け、外来診療単価の向上を図っていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
病床利用率	57.0%	59.5%	55.6%	△3.9%	93.4%	B
評価及び今後の施策	類似病院のうち、赤字病院の平均(R4)よりも更に下回る。 新型コロナウイルス感染症の流行以降、患者数がコロナ前の水準に回復しない状況が続いており、整形外科常勤医師の不在も影響した。 高齢患者が多数を占めることから、地域医療ニーズに合った病棟編成を検討していく。					

ウ 経費削減に係るもの(指定管理者の数値目標)

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5決算	達成率	評価
材料費 (千円)	178,910	111,089	111,531	442	99.6%	B
評価	医業収益に対する割合は、類似病院の平均値(R4)と同程度。 引き続き経費の節減に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5決算	達成率	評価
薬品費 (千円)	492,204	114,764	148,699	33,935	77.2%	C
評価及び今後の施策	医業収益に対する割合は、類似病院の平均値(R4)と同程度。 引き続き経費の節減に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5決算	達成率	評価
委託料 (千円)	239,908	239,908	220,569	△19,339	108.8%	A
評価及び今後の施策	引き続き、経費の節減に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5決算	達成率	評価
職員給与費 (千円)	1,365,034	1,263,651	1,256,668	△6,983	100.6%	A
評価及び今後の施策	類似病院の平均値よりも下回っているが、職員人件費は上昇傾向にある。 サービスの充実と人員の適正化に努めていく。					

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 見込	R5年度 (2023) 実績	比較 R5見込:R5実績	達成率	評価
減価償却費 (千円)	16,027	14,575	13,886	△689	105.0%	A
評価及び今後の施策	医療機器の選定、導入を計画的に行い、減価償却費の抑制、平準化を図る。					

エ 経営の安定に関わるもの

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 実績	比較 R4:R5	達成率	評価
常勤医師数 (人)	10	11	1	110.0%	A
評価及び今後の施策	令和5年度は、外科2名、内科7名、小児科1名、眼科1名の計11名の常勤医師と非常勤医師により診療を行った。 引き続き、医師確保に努めていく。				

項目\年度	R4年度 (2022) 実績	R5年度 (2023) 実績	比較 R4:R5	達成率	評価
企業債残高 (千円)	2,303,262	2,228,763	△74,499	103.3%	A
評価及び今後の施策	医療機器の選定、導入を計画的に行い、減価償却費の抑制、平準化を図る。				

(2)目標達成に向けた具体的な取組

当院は指定管理者制度を導入し、指定管理者のノウハウを活かし、経営の安定化を図っています。

収益の確保に向けた主な取組(令和5年度)

項目	取組の内容
地域包括ケア病棟の活用	在宅療養患者の受け入れを行い、かつ、在宅復帰支援を実施
診療科の強化	糖尿病内科の設置
救急車受入件数の増加	整形外科常勤医師不在のため内科で対応出来る範囲で受け入れ実施
三次救急医療機関と連携した、回復期患者の受入	主に地域包括ケア病棟で回復期対象患者を受け入れ在宅復帰を目指した
外来患者の利便性向上	巡回送迎車の運行
健診受診者の確保	南伊豆町と骨粗鬆症検診を新たに契約
在宅医療の推進	訪問リハビリテーション事業を開始
その他	サービスの向上に向け総合案内を設置

経費の削減に向けた取組

項目	取組の内容
人員の適正配置	整形外科常勤医師不在のため一時的に応援看護師を削減
業務の効率化	勤怠管理システムの導入により勤怠管理業務を大幅に削減
光熱水費等の削減	院内主要部をLED化および節水装置の設置
薬品・診療器材等、材料費の削減	物品発注システムの運用によるコスト意識の定着 後発医薬品の利用促進
その他	勤怠システム導入によるペーパーレス化

ア 収益的収支（税抜）（指定管理者収支計画+組合収支計画）

（単位：千円）

項目\年度	R4 年度実績 (参考)	R5 年度 (2023)		差 R5 見込：実績
		見込数値	実績値	
医業収益	2,437,646	1,960,097	1,908,991	△51,106
入院収益	1,178,817	1,261,891	1,203,384	△58,507
外来収益	1,114,621	563,003	583,248	20,245
その他医業収益	144,208	135,203	122,359	△12,844
(うち一般会計繰入金)	72,100	74,343	69,534	△4,809
医業外収益	393,933	224,763	286,804	62,041
(うち一般会計繰入金)	180,477	166,814	181,846	15,032
経常収益	2,831,579	2,184,860	2,195,795	10,935
医業費用	2,772,964	2,177,068	2,204,045	26,977
給与費	1,406,992	1,279,652	1,285,415	5,763
材料費	682,919	225,853	260,937	35,084
経費	473,471	448,298	445,752	△2,546
減価償却費等	206,653	219,827	210,016	△9,811
研究研修費	2,929	3,438	1,925	△1,513
医業外費用	49,491	46,631	43,314	△3,317
経常費用	2,822,455	2,223,699	2,247,359	23,660
経常損益	9,124	△38,839	△51,564	△12,725
特別利益	3,839	137,169	148,939	11,770
特別損失	4,626	314,304	200,356	△113,948
純損益	8,337	△215,974	△102,981	112,993

イ 資本的収支（税込）

（単位：千円）

項目\年度	R4 年度実績 (参考)	R5 年度 (2023)		差 R5 見込：実績
		見込数値	実績値	
企業債	106,900	132,400	134,600	2,200
その他	57,051	54,158	54,158	0
(うち一般会計繰入金)	52,319	53,485	53,485	0
資本的収入 計	163,951	186,558	188,758	2,200
建設改良費	111,975	133,166	135,751	2,585
企業債償還金	204,521	209,099	209,099	0
資本的支出 計	316,496	342,265	344,850	2,585
収支差引	△152,545	△155,707	△156,092	△385